エコアクション21

環境経営レポート

（2023年度）

活動期間2023年4月～2024年3月

仁尾興産株式会社

発行日　2024年7月2日

目　次

１. 組織の概要及び対象範囲
　　1）事業所の所在地及び代表者氏名
　　2）所在地
　　3）環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
　　4）事業内容
　　5）事業の規模
　　6）事業年度
　　7）認証・登録範囲

２．実施体制
　　1）エコアクション21推進組織図
　　2）各自の役割・責任及び権限

３．環境経営方針

４．環境経営目標
　　1）本社（化成品事業部・管理部（不動産事業含む）・カフェ）
　　2）坂出冷蔵倉庫

５．環境経営計画

６．環境経営目標の実績
　　1）本社（化成品事業部・管理部（不動産事業含む）・カフェ）
　　2）坂出冷蔵倉庫

７．環境経営計画の取り組み結果とその評価、
　　次年度の取り組み内容

８．環境経営目標（2024年度）

９．環境経営計画（2024年度）

10．環境関連法規等の遵守状況の確認

11．代表者による全体評価と見直し・指示

12.「取組内容」

１．組織の概要及び対象範囲（認証・登録範囲）

□ 組織の概要

（1）名称及び代表者

仁尾興産株式会社
代表取締役　塩田　健一

（2）所在地

本社	香川県三豊市仁尾町仁尾辛1番地
化成工場	香川県三豊市仁尾町仁尾辛1番地
東京営業所	東京都新宿区新宿4-3-17 FORECAST新宿SOUTHビル6階
坂出冷蔵倉庫	香川県坂出市入船町1丁目4番1号

（3）環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者　高橋　寛栄
EA21事務局　加納　知佳
TEL：0875－82－3456

（4）事業内容

塩化マグネシウム（にがり）の製造・販売業
冷凍冷蔵倉庫業
不動産業
飲食店業（本社敷地内にてカフェ開店）

（5）事業の規模

【資本金】　9,750万円
【総売上高】　14億9千万円（2023年4月1日～2024年3月31日）
化成品事業　12億3千万円（東京営業所売上含む）
倉庫事業　1億8千万円
不動産事業　7千万円
新規事業　1千万円（カフェ部門）

	本社 （不動産・新規事業含む）	化成工場	東京営業所	坂出冷蔵倉庫
従業員	24名	26名	1名(本社兼任)	5名
延べ床面積	486.49㎡	9,462.99㎡	1㎡	5,680.82㎡

（6）事業年度

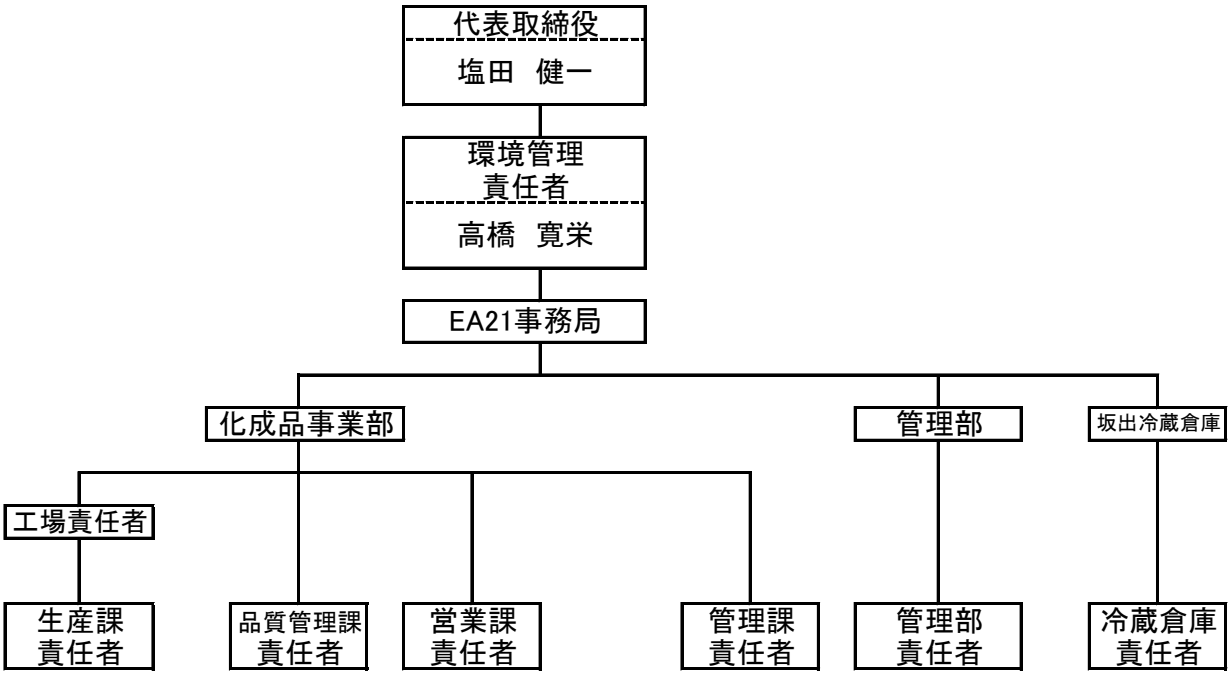
4月～3月

（7）認証・登録範囲

登録事業所：　本社
化成工場
カフェ部門
坂出冷蔵倉庫
東京営業所

２．実施体制

１）エコアクション２１推進組織図



２）各自の役割・責任及び権限

		役割・責任・権限
代表取締役		・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な、人、設備、費用、時間を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定、見直し・指示全従業員への周知 ・代表者による全体の評価と見直し・指示を実施 ・環境経営レポートの承認 ・環境関連法規等取りまとめ表の承認 ・環境経営目標、環境経営計画書を承認 ・自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル承認
環境管理責任者		・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境経営の取り組み結果を代表者に報告 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境経営レポートの確認 ・環境経営目標、環境経営計画書の確認 ・自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル確認 ・全従業員に対する教育・訓練の実績記録表の承認 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置票管理表の承認 ・環境関連の外部コミュニケーションの記録受付表承認
エコアクション21事務局		・環境管理責任者の補佐 ・環境経営レポートの作成 ・環境負荷の自己チェック及び、環境への取り組みの自己チェック実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境経営目標、環境経営の実績集計 ・全従業員に対する教育・訓練の実績記録表の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置票管理表の作成 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口・記録受付表作成
エコアクション21責任者	管理部 （カフェ含む）	・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施 ・全従業員に対する教育・訓練の実施
	化成品事業部管理課	・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
	化成品事業部営業課 （東京営業所含む）	・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
	化成品事業部生産課	・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
	化成品事業部品質管理課	・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
	化成品事業部業務課	・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
	坂出冷蔵倉庫	・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員		・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的、積極的に環境経営へ参加

３．環境経営方針

環 境 経 営 方 針

環境理念

私たちは地球環境と事業活動の調和を図り、
豊かな社会づくりと地球環境保全に貢献します。

環境保全

①当社は、あらゆる企業活動を通じて、環境保全への取り組を
積極的に実施し、環境経営の継続的改善に努めます。

②環境や食品安全に関する法律、規制、協定などを遵守します。

③事業活動における二酸化炭素(CO2)、廃棄物、排水量などの
排出抑制および削減に努めます。

④食品(食品添加物)廃棄物の削減を推進します。
製品の歩留まり向上と使用原材料のロスの削減を促進します。

環境啓発

①日常業務や社内教育などを通じて、環境保全活動に対する
社員の理解と意識の向上に努めます。

②環境レポートを公表し、透明性のある環境保全活動に
努めます。

制定日:2021年10月1日
改訂日:2022年 4月 1日
仁尾興産株式会社
代表取締役　塩田健一

４．環境経営目標

1）本社（化成品事業部・管理部（不動産事業含む）・カフェ）

目的	単位	目　標				
		基準年(2019年度)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素の削減　＊1	kg-CO_2	1,369,255				
二酸化炭素排出量／総生産量	kg-CO_2/t	171.05	169.69	169.65	169.60	169.55
A重油の排出量	L	442,400	439,450	446,600	453,950	461,300
A重油の燃焼率の向上　＊2	kg-CO_2/t	205.58	205.30	205.10	205.00	204.90
一般廃棄物の削減	kg	14,564	14,350	14,150	14,000	13,750
産業廃棄物の削減	kg	46,070	45,700	45,400	45,000	44,750
食品(食品添加物)廃棄物の リサイクル率　＊3	%	100.00	99.50	99.50	99.50	99.50
水総使用量の削減	㎥	9,840				
水総使用量／総生産量	㎥/t	1.22	1.20	1.20	1.20	1.20
使用原材料のロスの削減　＊4	%	―	－	－	1%未満	1%未満
総生産量	t	8,005	8,100	8,200	8,300	8,400
塩マグ生産量(重油使用製品)	t	5,831	5,800	5,900	6,000	6,100

＊1. 電力のCO_2 発生量については、
(株)吉田石油の調整後排出係数0.453(kg-CO_2/kWh)を使用した。
(環境省公表2019年度実績に基づく)

＊2. A重油排出量(kg-CO_2)を塩マグ生産量(t)で割る。

＊3. ・舗装無し本社駐車場に二次製品を散布する。
(防塵テスト及び環境整備)

＊4 ・製品の歩留まりの向上
2022年度より環境経営方針が変わり、組織本来の取り組みとして使用原材料のロスの削減に取り組む。

＊　東京営業所は環境負荷は極めて小さく数値では算定できないので策定していない。

＊　化学物質の使用はなし

＊　今年度は2023年度の目標に取り組む。

４．環境経営目標

2）坂出冷蔵倉庫

目的	単位	目　標				
		基準年(2019年度)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素の削減　＊1	kg-CO_2	538,113				
二酸化炭素排出量／売上高	kg-CO_2/百万円	4,079	3,780	3,750	3,700	3,650
一般廃棄物の削減	kg	800	100	520	700	650
産業廃棄物の削減	kg	880	460	580	700	650
水総使用量の削減　＊2	㎥	1,700				
水総使用量／売上高	㎥/百万円	－	－	15.0	14.0	13.0
売上高	百万円	131.9	112.0	113.0	114.0	115.0

＊1．電力のCO_2 発生量については、
　四国電力の調整後排出係数0．528（kg-CO_2 /kWh）を使用した。
　（四国電力発表2018年度実績に基づく）

＊2．水総使用量見直しを実施。基準年度については2021年度の実績を基準値として策定する。

＊　化学物質の使用はなし

＊　今年度は2023年度の目標に取り組む。

５．環境経営計画

１）本社（化成品事業部・管理部（不動産事業含む）・カフェ）

環境目標	目的	活動計画
(1)二酸化炭素	A重油の燃焼率の向上	・不良品発生の抑制 ・炉の定期的なメンテナンス ・製造工程の見直しを実施
	電気使用量の削減	・エアコンフィルタ清掃を年2回実施 ・RE100の取り組みを意識し、自家消費型太陽光発電の導入 ・クールビズ、ウォームビズ推進
	ガソリンの二酸化炭素削減	・出張時の公共交通機関の利用推進 ・エコドライブの励行 ・燃費向上を図る
(2)廃棄物	一般廃棄物の削減	・ペーパーレス化の推進 ・文書管理の徹底
	産業廃棄物の削減	・保管状態の改善 ・5Sの推進
(3)食品(食品添加物)廃棄物のリサイクル率	食品廃棄物の削減	・二次製品再利用法の開発 ・防塵テスト及び環境整備に使用 ・カフェの廃油・食物残渣は再資源化可能な業者に委託
(4)水使用量	水使用量の削減	・節水ポスターなどで、節水意識の向上を図る ・定期的なタンク液漏れ点検及び修繕、配管漏れ点検及び修繕
(5)使用原材料ロスの削減	ロス率1%未満	・作業開始時のシール機汚れ確認 ・作業終了時の資材置き場の確認
(6)環境教育	社員啓発活動	・緊急時対応＝消防訓練・A重油漏洩対策対応訓練 ・教育訓練年間計画に基づき実施（5S活動含む）環境社会検定の受験等推進する

５．環境経営計画

2）坂出冷蔵倉庫

環境目標	目的	活動計画
(1)二酸化炭素	電気使用量の削減	・デマンド監視装置による確認（デマンド値を下げる） ・エアコンフィルタ清掃を年2回実施 ・冷蔵庫・冷凍庫に入る際はこまめに出入りをせず、まとめて作業に入る。
(2)廃棄物	一般廃棄物の削減	・分別、ペーパーレス化
	産業廃棄物の削減	・保管状態の改善 ・5S
(3)水使用量	水使用量の削減	・節水ポスターなどで、節水意識の向上を図る ・漏水点検を行う

６．環境経営目標の実績

１）本社（化成品事業部・管理部（不動産事業含む）・カフェ）

〇取組期間　2023年4月　～　2024年3月

目的	単位	基準年 2019年	目標 （2023年4月～ 2024年3月）	実績 （2023年4月～ 2024年3月）	評価
二酸化炭素の削減	kg-CO_2	1,369,255		1,317,815	
二酸化炭素排出量／総生産量	kg-CO_2/t	171.05	169.55	155.14	○
A重油の使用量	L	442,400	461,300	442,500	○
A重油の燃焼率の向上	kg-CO_2/t	205.58	204.90	197.55	○
一般廃棄物の削減	kg	14,564	13,750	2,369	○
産業廃棄物の削減	kg	46,070	44,750	53,150	×
食品（食品添加物）廃棄物のリサイクル率	%	100.00	99.50	100.00%	〇
水総使用量の削減	㎥	9,840		8,597	
水総使用量／総生産量	㎥/t	1.22	1.20	1.01	○
使用原材料のロスの削減	%	―	1%未満	0.32%	○
総生産量	t	8,005	8,400	8,494	○
塩マグ生産量（重油使用製品）	t	5,831	6,100	6,070	×

【評価基準】
〇：達成　×：未達成

【コメント】
①電力は、2023年1月より太陽光パネルを設置し、発電分を工場製造に利用しているため全体的に消費電力量が減少した。また、フレーク製品生産量の減少で消費電力量が減少した。
②ガソリンは、6月及び12月に尿素と塩化マグネシウムの製造において、フォークリフトによる運搬で利用したため消費量が増加。
③水は、タンク増設時に洗浄の為に利用し、12月の利用量が増加した。
④食品廃棄物は、発生量1,193kg、発生抑制量23,215kg、再生利用量1,193kg。再生利用量は、除草剤として二次利用しており、リサイクル率100%を達成。
⑤A重油は、塩マグ生産量が減少したため、A重油消費量が減った。
⑥産業廃棄物は、製造工場の一部改修のため廃棄量が増加した。

６．環境経営目標の実績

2）坂出冷蔵倉庫

〇取組期間　2023年4月　～　2024年3月

目的	単位	基準年 2019年	目標 （2023年4月～ 2024年3月）	実績 （2023年4月～ 2024年3月）	評価
二酸化炭素の削減	kg-CO_2	538,113		458,015	
二酸化炭素排出量／売上高	kg-CO_2/百万円	4,079	3,650	2,511	〇
一般廃棄物の削減	kg	800	650	400	〇
産業廃棄物の削減	kg	880	650	1,310	×
水総使用量の削減	㎥	1,700		1,686	
水総使用量／売上高	㎥/百万円	—	13.0	9.2	〇
売上高	百万円	131.9	115.0	182.4	〇

【評価基準】
〇：達成　×：未達成

【コメント】
①一般廃棄物は、電子請求書にすることで、ペーパーレスに取り組んだ。
②産業廃棄物は、フィルムで固定していた商品を一部代替の紐で固定するなどしてフィルムの排出量を削減した。
③産業廃棄物は、売上が増えた分、物量も増えフィルムの使用が増えた。2024年度は、パレットに巻くフィルムの量を4巻→2巻にして減らす努力をしていく。
④全員で冷凍庫扉の開閉を素早く行い、庫内温度を意識した。庫内に入る前の荷捌き場を先に冷やすことで冷凍機の同時運動を回避し、庫内温度をあげないように調整した。
⑤水の使用量は、新冷凍機設置によりクーリングタワーが要らなくなった為、今後、夏場の利用がなくなり使用量削減が見込める。
⑥二酸化炭素は、売上が増加したため計算上母数が大きくなり、売り上げ当たりの二酸化炭素の発生量が少なくなった。

７．環境経営活動計画の取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容

1）本社（化成品事業部・管理部（不動産事業含む）・カフェ）

環境目標	目的	活動計画	取組み結果	評価	次年度の取組み
(1)二酸化炭素	A重油の燃焼率の向上	・不良品発生の抑制 ・炉の計画的なメンテナンスにより燃焼効率を高める ・製造工程の見直しを実施	昨年度より不良品発生の抑制が出来た。 釜、炉の経年劣化により燃焼効率が低下、計画的なメンテナンスを行ったが、対応しきれない問題が発生した。 製造工程の見直しを実施し、休日運転する事で燃焼効率を補った。	△	次年度も取組を継続
	電気使用量の削減	・エアコンフィルタ清掃を年2回実施 ・RE100の取組を意識し、自家消費型太陽光発電の導入を進める。 ・クールビズ、ウォームビズ推進	エアコンフィルタ清掃については1回実施でした。 太陽光発電については設置が完了しており、稼働しています。 クールビズ、ウォームビズの推進として制服を選択できるように、ドライTシャツを新たに採用した。	△	照明器具関係で故障交換時にすべてLED化を進める。
	ガソリンの二酸化炭素削減	・出張時の公共交通機関の利用推進 ・エコドライブの励行 ・燃費向上を図る	出張時の公共交通機関の利用促進ができた。エコドライブは車の中に用紙を置き運転終了時に必ずエコドライブができたかどうか記入してもらうようにしている。 燃費向上のため、定期的なメンテナンスを行えた。	○	次年度も取組を継続
(2)廃棄物	一般廃棄物の削減	・ペーパーレス化の推進 ・文書管理の徹底	請求書の電子化に取り組み、書類を電子化して管理するようになり、ペーパーレス化を進めた。 書庫の整理をおこない、文書類の整理整頓を進めた。	○	次年度も取組を継続
	産業廃棄物の削減	・保管状態の改善 ・5S	保管状態の改善で廃フレコン置場上部に飛ばないよう網の設置をおこなった。5S、分別の徹底、管理をおこなった。	○	次年度も取組を継続
(3)食品(食品添加物)廃棄物のリサイクル率	食品廃棄物の削減	・二次製品再利用法の開発 ・防塵テスト及び環境整備に使用 ・カフェの廃油・食物残渣は再資源化可能な業者に委託	二次製品再利用法の開発は停滞してる。塩マグ二次製品の廃棄物は、除草剤や環境整備として活用している。 カフェの廃油、食物残渣は全量リサイクル業者及びトンネルコンポスト方式を行う業者へ回収依頼は行えた。	△	カフェの廃棄物を提供方法の工夫で削減
(4)水使用量	水使用量の削減	・節水ポスターなどで、節水意識の向上を図る ・定期的なタンク液の漏れ点検及び修繕、配管漏れ点検及び修繕	節水ポスターで意識の向上を図った。 水道蛇口・配管の定期的な点検を行い、水漏れ防止に努めた。貯水タンク・消火ポンプの配管漏れの修繕をおこなった。	○	次年度も取組を継続
(5)使用原材料ロスの削減	ロス率1%未満	・作業開始時のシール機汚れ確認 ・作業終了時の資材置き場の確認	定期的なシール機のメンテナンスを行い資材ロス減少に努めた。 作業開始前のシール機汚れ確認や、作業終了時の資材置き場の確認など、3sの徹底により作業環境を整え、ヒューマンエラーによる印字ミスの資材ロスが減少した。	○	次年度も取組を継続
(6)環境教育	環境教育	・緊急時対応＝消防訓練・A重油漏洩対策対応訓練 ・教育訓練年間計画に基づき実施（5S活動含	1/10 A重油対応訓練実施。 安全パトロールを定期的に行い、危険個所があれば各担当部署で確認し安全対策を行った。 消防訓練が2023年度できておらず、	△	次年度も取組を継続

【評価基準】　○：計画通り実施　△　一部出来なかった　×：出来ていない

７．環境経営活動計画の取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容

2) 坂出冷蔵倉庫

環境目標	目的	活動計画	取組み結果	評価	次年度の取組み
(1)二酸化炭素	電気使用量の削減	・デマンド監視装置による確認（デマンド値を下げる） ・エアコンフィルタ清掃を年2回実施 ・冷蔵庫・冷凍庫に入る際はこまめに出入りをせず、まとめて作業に入る。	常にデマンド値を見える化することで、冷凍機同時運転を回避した。 週に1回フィルター洗浄しエアコンの消費電力を節電した。 冷凍庫扉の開閉を素早く行うことで庫内温度を上昇させないよう意識した。 また荷捌き場を先に冷やすことで庫内の温度をあげないよう調整した。 2024年度から新設した冷凍機により、約10%電気使用量が減少する見込み。	○	「5．環境経営計画（2024年度）」に記載
(2)廃棄物	一般廃棄物の削減	・分別、ペーパーレス化	電子請求書にすることで、ペーパーレスに取り組んだ。	○	「5．環境経営計画（2024年度）」に記載
	産業廃棄物の削減	・保管状態の改善 ・5S	取組はできているが売上が増えた分、物量も増えフィルムの使用が増えた。 2024年度は、パレットに巻くフィルムの量を4巻→2巻にして減らす努力をしていく。	○	「5．環境経営計画（2024年度）」に記載
(3)水使用量	水使用量の削減	・節水ポスターなどで、節水意識の向上を図る ・漏水点検を行う	漏水がすぐに分かるように配管の位置を変更した。 気温が上昇する夏場については、冷凍機のクーリングタワーの水使用量が増えるが、トイレの水圧調整などで使用量の削減に努めた。 尚、自然冷媒冷凍機を新設したことで、クーリングタワーの使用が無くなるため、来年度より水の使用量が削減できる。	△	「5．環境経営計画（2024年度）」に記載

【評価基準】　○：計画通り実施　△　一部出来なかった　×：出来ていない

8. 環境経営目標（2024年度）

1）本社（化成品事業部・管理部（不動産事業含む）・カフェ）

目的	単位	目　標			
		基準年(2023年度)	2024年度	2025年度	2026年度
二酸化炭素の削減　＊1	kg-CO_2	1,318,557			
二酸化炭素排出量／総生産量	kg-CO_2/t	155.23	155.15	155.08	155.00
A重油の排出量	L	442,500			
A重油の燃焼率の向上　＊2	kg-CO_2/t	197.55	197.45	197.35	197.26
一般廃棄物の削減　＊3	kg	2,369	6,000	5,700	5,415
産業廃棄物の削減	kg	53,150	52,884	52,620	52,357
食品(食品添加物)廃棄物の リサイクル率　＊4	%	100.00%	100.00	100.00	100.00
水総使用量の削減	㎥	8,597			
水総使用量／総生産量	㎥/t	1.01	1.00	1.00	1.00
使用原材料のロスの削減　＊5	%	0.32%	0.5%未満	0.5%未満	0.5%未満
総生産量	t	8,494	8,579	8,665	8,752
塩マグ生産量(重油使用製品)	t	6,070	6,161	6,254	6,347

＊1. 電力のCO_2 発生量については、
　(株)吉田石油の調整後排出係数0.457(kg-CO_2 /kWh)を使用した。
　(吉田石油発表2022年度実績に基づく)
＊2. A重油排出量(kg-CO_2)を塩マグ生産量(t)で割る。
＊3.2024年9月より焼却炉廃止のため、一般廃棄物の見直しをおこなう。
＊4. 舗装無し本社駐車場に二次製品を散布する。(防塵テスト及び環境整備)
＊5. 前年は目標1%未満を目指し、0.32%の実績を上げたが、会社としては0.5%未満を目標とする。

＊　東京営業所は環境負荷は極めて小さく数値では算定できないので策定していない。

＊化学物質の使用はなし

8. 環境経営目標（2024年度）

2）坂出冷蔵倉庫

目的	単位	目　標			
		基準年（2023年度）	2024年度	2025年度	2026年度
二酸化炭素の削減　＊1	kg-CO_2	387,247			
二酸化炭素排出量／売上高	kg-CO_2/百万円	2,123	2,017	1,916	1,820
一般廃棄物の削減	kg	400	380	361	343
産業廃棄物の再資源化　＊2	%	100%	100%	100%	100%
水総使用量の削減	㎥	1,686			
水総使用量／売上高	㎥/百万円	9.2	8.8	8.3	7.9
売上高	百万円	182.4	183.3	184.2	185.1

＊1.電力のCO_2 発生量については、
四国電力の調整後排出係数0.446（kg-CO_2 /kWh）を使用した。
（四国電力発表2022年度実績に基づく）

＊2　廃棄物は売り上げに左右されるため、再資源化に取り組む。

＊　化学物質の使用はなし

9. 環境経営計画（２０２４年度）

1）本社（化成品事業部・管理部（不動産事業含む）・カフェ）

環境目標	目的	活動計画
(1)二酸化炭素	A重油の燃焼率の向上	・不良品発生の抑制 ・炉の定期的なメンテナンス ・製造工程の見直しを実施
	電気使用量の削減	・エアコンフィルタ清掃を年2回実施 ・照明器具関係で故障交換時にすべてLED化を進める。 ・クールビズ、ウォームビズ推進
	ガソリンの二酸化炭素削減	・出張時の公共交通機関の利用推進 ・エコドライブの励行 ・燃費向上を図る
(2)廃棄物	一般廃棄物の削減	・ペーパーレス化の推進 ・文書管理の徹底
	産業廃棄物の削減	・保管状態の改善 ・5Sの推進
(3)食品(食品添加物) 廃棄物のリサイクル率	食品廃棄物の再資源化	・二次製品再利用法の開発 ・防塵テスト及び環境整備に使用 ・カフェの廃棄物を提供方法の工夫で削減
(4)水使用量	水使用量の削減	・節水ポスターなどで、節水意識の向上を図る ・定期的なタンク液漏れ点検及び修繕、配管漏れ点検及び修繕
(5)使用原材料ロスの削減	ロス率0.5%未満	・作業開始時のシール機汚れ確認 ・作業終了時の資材置き場の確認
(6)環境教育	社員啓発活動	・緊急時対応＝消防訓練・A重油漏洩対策対応訓練 ・教育訓練年間計画に基づき実施（5S活動含む） 環境社会検定の受験等推進する

9. 環境経営計画（２０２４年度）

2）坂出冷蔵倉庫

環境目標	目的	活動計画
(1)二酸化炭素	電気使用量の削減	デマンド監視装置を常に意識し、基準値を超えないようにする。 冷凍庫内のサーキュレーターの活用 新しい冷凍機で各部屋の電力平準化制御設定をすることで同時運転を回避する。
(2)廃棄物	一般廃棄物の削減	顧客向け書類や社内回覧を電子化する。
	産業廃棄物の再資源化	フィルムから紐に切り替えていく
(3)水使用量	水使用量の削減	節水ポスターなどで、節水意識の向上を図る。

10. 環境関連法規等の遵守状況の確認

1.違反、訴訟の有無
当社において、環境関連法の遵守状況をチェックした結果、環境関連法規の違反はありません。また、各関係機関からの違反、訴訟の指摘、外部からの訴訟及び苦情等もありません。

・環境関連法規等の順法状況
法的義務を受ける主な環境関連法規は次の通りである。
適用される法規 遵守すべき事項 遵守・評価

適用される法規	遵守すべき事項	遵守・評価
化審法	・一般化学物質の輸入（1ﾄﾝ以上）	遵守
労働安全衛生法	・労働者の安全と健康の確保	遵守
	・快適職場環境の形成	
毒物及び劇物取締法	・毒物及び劇物の販売	遵守
	・盗難／漏洩防止・容器、貯蔵場所に表示・事故・盗難時届出（警察など）	
消防法	・指定数量未満の危険物保管の扱い	遵守
高圧ガス保安法	・高圧ガス容器置場や充てん容器は、容器置場の技術上の基準に従う。 ・容器の定期検査	遵守
食品衛生法	・営業の許可認可及び専任の食品衛生管理者の設置	遵守
廃棄物処理法	・一般廃棄物、産業廃棄物（廃プラ・廃油等）の適正な処理委託委託契約の締結、	遵守
	処理業者の許可証の確認	
	・廃棄物の収集、処理委託基準の遵守	
	・産業廃棄物の年間集計と知事報告	
食品リサイクル法	・平成23年度を基準に事業者ごとの再資源化率の目標達成を目指す	遵守
大気汚染防止法	・事故時の措置と届出	遵守
	・特定施設の届出	
	・排出基準の遵守	
	・排出濃度の測定・記録（3年保存）、監視	
オフロード法	・基準に適合した特定特殊自動車の使用	遵守
浄化槽法	・使用届	遵守
	・定期水質検査	
フロン排出抑制法	・フロン類の登録充填回収業者による適切な引き渡し	遵守
	・環境影響の少ない指定製品の使用に努める	
	・フロン類回収時の委託確認書交付と引取証明書の保存（3年間）	
	・引取証明書が30日以内に送付されない場合の知事への報告	
	対象；第1種特定機器 ・簡易点検（すべて　1回/3ヶ月以上） ・有資格者による定期点検 空調機器(7.5kW以上1回/3年以上、 50kW以上1回/年以上) 冷蔵冷凍機器(7.5kW以上 1回/年以上) ・点検記録の保存（廃棄まで）	
グリーン購入法	・できる限り環境物品等を選択するよう努める	遵守
香川県環境基本条例	・公害の防止その他の環境への負荷の低減又は自然環境の適正な保全のために必要な措置	遵守
三豊市環境基本条例	・事業活動で生じるばい煙、汚水、廃棄物等の処理及び公害防止	遵守
坂出市環境基本条例	・事業活動で生じるばい煙、汚水、廃棄物等の処理及び公害防止	遵守
	・地域環境の美化（空き缶，吸い殻等の投棄および犬のふんの放置を防止する）	遵守

11. 代表者による全体評価と見直し・指示

<table>
<tr><th colspan="3">レビュー項目</th><th colspan="2">代表者の評価及び指示事項</th></tr>
<tr><td colspan="3" rowspan="6">①環境活動の実施状況及び環境目標の達成状況</td><td>二酸化炭素削減</td><td>二酸化炭素排出量の2大要素はA重油使用料と電力使用量ですが、A重油に関しては前窯の定期的メンテナンスとバーナーの保全、修理にかかっています。生産性にも大きく影響してくるので、今まで以上にメンテナンスに注力するよう願います。電気使用量に関しては2023年１月にソーラーパネルを装着し、年間約30%近くの電力をまかなうことが出来た。そのほか、順次LEDに交換したり、エアコンフィルターの清掃など全社的な節電をこれからも継続していきたい。坂出倉庫は庫内の冷気を逃がさないよう、迅速な入退室に心がけた。2023年からは新冷凍機の導入を図りエネルギー効率が上がった。サーキュレーターの上手な活用をして庫内温度の調整をしましょう。</td></tr>
<tr><td>廃棄物削減</td><td>化成工場は建屋の取り壊しなど工場の大きな工事はほぼ終了し、建材等の廃材廃棄物は前年より大幅に減少したが目標は未達成に終わった。坂出倉庫も同様に大きな工事はほぼ終了し、建物での廃棄物も減少したが、売り上げにより左右されるため再資源化に取り組む。</td></tr>
<tr><td>食品リサイクル率の向上</td><td>二次製品へのリサイクルを推進</td></tr>
<tr><td>水使用量の削減</td><td>節水ポスターでの呼びかけや配管点検及び修理を定期的に行うことで目標を達成できた。坂出倉庫に関しては新冷凍機の導入でクーリングタワーが無くなったことで水の使用量を減らすことができた。</td></tr>
<tr><td>環境教育</td><td>A給油漏洩対策対応訓練　　消防訓練に関しては2023年度に実施できなかったが、必ず年度内に実施するようにしてください</td></tr>
<tr><td>組織本来の取組</td><td>教育年間計画に基づき実施
新入社員が多く入社したので、計画的に環境教育を実施願います。</td></tr>
<tr><td colspan="3">②その他</td><td colspan="2">全社5S活動により、周辺の環境整備に努める。定期的な除草、草刈りを継続。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">見直しの結果</td><td>実施体制の見直しの必要性</td><td>有</td><td colspan="2">2か月に一回のISO委員会への参加と各課責任者の協力を得ること。
環境管理責任者を品質管理課に移行する。</td></tr>
<tr><td>環境経営方針の見直しの必要性</td><td>無</td><td colspan="2">今期も継続する。</td></tr>
<tr><td>環境経営目標・環境経営計画見直しの必要性</td><td>有</td><td colspan="2">２０２３年度を基準とし、２０２６年度までの目標を設定する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">全体評価

2023年10月食品工場としてのFSSC22000認証取得へのキックオフスタート。それに向けて第二次設備更新5か年計画がスタートしました。毎月一回の勉強会を実施し、5Sはもとよりエネルギーの効率化、環境負荷軽減、シートシャッター設置による工場、倉庫の外気からの遮断、フォークリフトの電動化など、食品工場としての衛生管理、環境保全に取り組んできました。原料の庫内保管のためのテント倉庫増設、電動フォークリフトの導入など単年度では出来ないが毎年の計画で達成する計画です。
EA21もFSSC22000と連動して活動し、相乗効果を発揮できることを期待します。5Sに関してもより進化していく必要があります。そのためには全社員の意識改革が必要で、改めて計画的な環境教育を実施していきましょう。
二酸化炭素排出削減のためのボイラー、窯の更新やソーラー発電増設、浄化槽新設など膨大な費用をかける前に、一人当たりの生産量、売り上げを上げるなど、エネルギー投入量に対する生産性の向上を目指し努力することが優先されます。</td></tr>
</table>

実施日：2024年4月30日

代表取締役　塩田健一

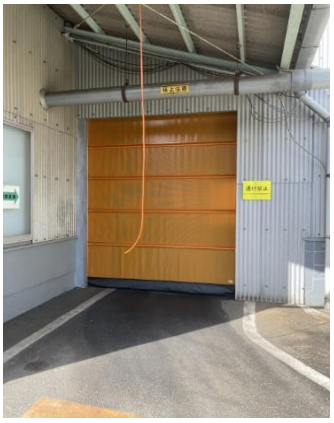
12.「取組内容」

・太陽光パネルの設置

工場および本社事務所の屋根にソーラーパネルを設置。工場などの電力へ供給したことで
2023年度の請求電力量（185,451kwh)は、前年度(244,150kwh)より4分の1程度減少しました。

・シートシャッターの設置

HACCP導入型食添GMPに向けた取り組みとして、シートシャッターの設置を行いました。
製造環境を整え庫内への害虫の侵入を防ぎ、製品の品質向上に努めています。



・坂出　自然冷媒冷凍機の導入

CO_2冷凍機を新設しました。

フロン冷媒から環境にいい自然冷媒CO_2を使用することでODPを0.05→0にGWPを1810→1にします。

12.「取組内容」

・～umiral～にがり生産量日本一の仁尾興産が立ち上げたライフケアブランド

ハンドクリーム：保湿成分に「にがり」を配合し、石鹸の香りが心地良いハンドクリーム。

バスソルト：にがり100%の無香料無着色のバスソルト。
保湿保温効果の高いにがりで、お肌は潤い、体は芯からポカポカになります。

（ウミラルバスソルト）

（ウミラルハンドクリーム）

・豆腐作り体験教室

にがりの認知度向上のため、豆腐マイスターの資格をもった社員が、にがりのあれこれ、豆腐のあれこれを分かりやすく丁寧に教える教室を行っています。